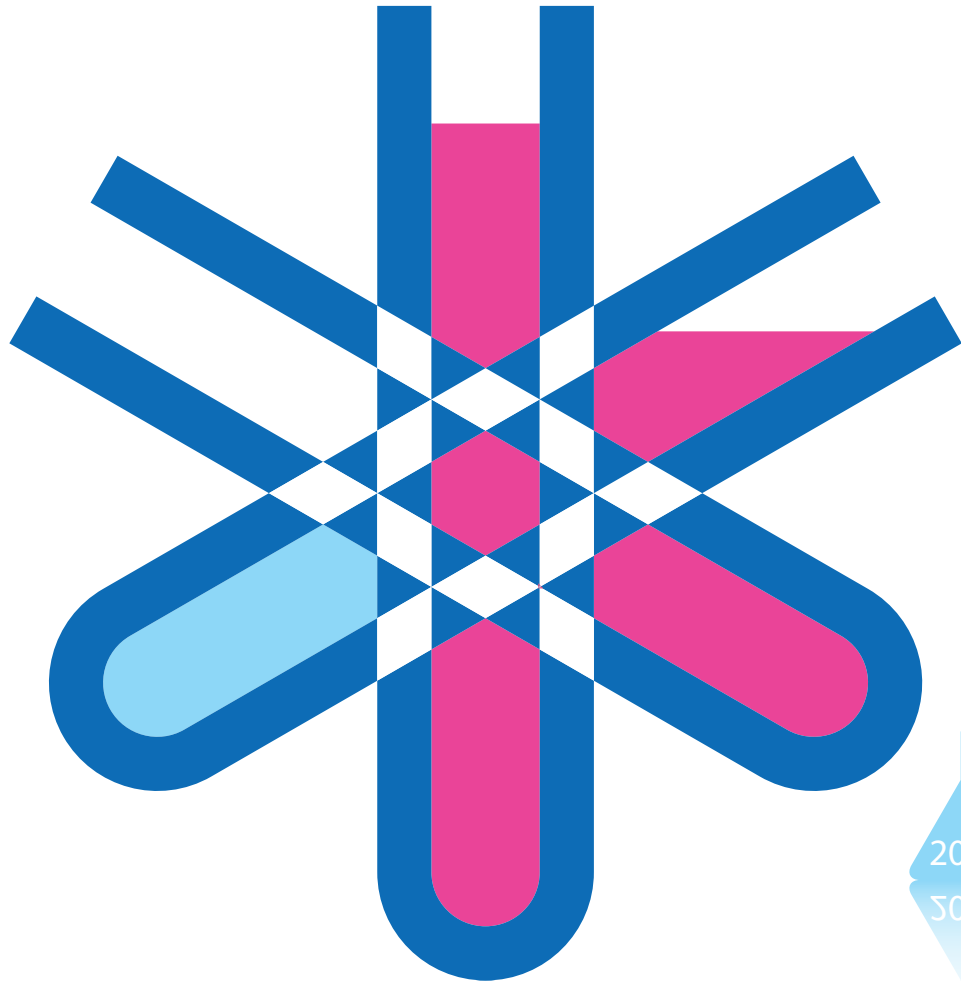


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和2年7月号 目次

【検査結果】

農産物の残留農薬検査結果(令和2年4月)	1
簡易専用水道及び小規模受水槽水道の水質事故の検査結果(令和元年度)	3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告 6月	6
----------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	10
---------------------	----

農産物の残留農薬検査結果(令和2年4月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和2年4月に健康福祉局食品専門監視班が収去した農産物の検査結果を報告します。

◆ 市内産農産物

4月に収去されただいこんの根(5検体)、こまつな(3検体)、キャベツ及びトマト(各2検体)、かぶの根及びにんじん(各1検体)の計14検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。こまつな2検体及びトマト2検体から延べ4項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

(R2年4月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
かぶの根	横浜市	1	0			
キャベツ	横浜市	2	0			
こまつな	横浜市	3	1	シアゾファミド	0.22	15
			1	テフルトリン	0.01	0.5
だいこんの根	横浜市	5	0			
トマト	横浜市	2	1	クロルフェナピル	0.01	1
			1	フルジオキシニル	0.01	5
にんじん	横浜市	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物		農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物	
		A	B			A	B
BHC(α, β, γ及びδの和)	0.005	○	-	クロチアニジン	0.01	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○
EPN	0.01	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	クロルプロファミド	0.01	○	○
アラクロール	0.01	○	○	クロロクソロン	0.01	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	-	シアゾファミド	0.01	○	○
イソキサチオン	0.01	-	○	シアノフェンホス	0.01	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	シアノホス	0.01	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	ジエトフェンカルブ	0.01	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	ジコホール	0.01	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	シハロトリン	0.01	○	○
エボキシコナゾール	0.01	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	シフルトリン	0.01	○	○
エンドリン	0.005	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○
オキサミル	0.01	○	○	シプロコナゾール	0.01	○	○
カルバリル	0.01	○	○	シベルメトリン	0.01	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	ジメトエート	0.01	○	○
クミルロン	0.01	○	○	ジメトモルフ	0.01	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	シラフルオフエン	0.01	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物		農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物	
		A	B			A	B
ダイアジノン	0.01	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	フサライド	0.01	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○
チアメキサム	0.01	○	-	ブプロフェジン	0.01	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	フルトラニル	0.01	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	フルバリネート	0.01	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	フルリドン	0.01	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	プロシミドン	0.01	○	○
トリフルラリン	0.01	○	-	プロチオホス	0.01	○	○
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	プロパホス	0.01	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	プロピザミド	0.01	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	ブromoプロピレート	0.01	○	○
パラチオン	0.01	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-
ビフェントリン	0.01	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○
ピリダベン	0.01	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	ボスカリド	0.01	○	○
ファミキサドン	0.01	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○
フィプロニル	0.002	○	○	マラチオン	0.01	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○
フェニトロチオン	0.01	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	メチダチオン	0.01	○	○
フェンクロルホス	0.01	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○
フェンスルホチオン	0.01	○	○	メトラクロール	0.01	○	○
フェントエート	0.01	○	○	リニューロン	0.01	○	○
フェンバレレート	0.01	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○
フェンピロキシメート	0.01	○	○	ルフェスロン	0.01	○	○
フェンブコナゾール	0.01	○	○	レナシル	0.01	○	○

A:こまつな、トマト、にんじん B:かぶの根、キャベツ、だいこんの根

○:実施、 -:実施せず

DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

簡易専用水道及び小規模受水槽水道の水質事故の検査結果 (令和元年度)

水道は戸建て住宅などの建物に直接給水したときに快適に利用できるように圧力が調整されています。このためおおむね3階建て以上の建物では圧力が不足し給水できないことが多く、受水槽(貯水槽)に水道水を一旦貯留してポンプの圧力で中高層階へ送る「受水槽式給水」が採用されています。「受水槽式給水」は屋上に設置された高置水槽に揚水ポンプで汲み上げ自然落下させ給水する「高置水槽方式」と高置水槽を経由せずに加圧(増圧)ポンプで給水する「加圧ポンプ(圧力タンク)方式」に分かれます。また、受水槽の大きさによって「簡易専用水道(水道法)」と「小規模受水槽水道(横浜市条例第56号で定める)」に分けられます。

令和元年度に検査した「簡易専用水道」及び「小規模受水槽水道」の水質事故事例を3例報告します。

【事例1】 飲食店舗・事務所

相談	令和元年7月 飲食店の給水末端から異物が流出する。水道水が着色している。
施設概要	地上10階地下1階建 昭和51年給水開始
小規模受水槽水道	受水槽式給水 高置水槽方式 受水槽(屋内、地下式、材質コンクリート、水槽数1、有効容量7.6m ³) 高置水槽(屋外、10階屋上、材質FRP、水槽数1、有効容量3.0m ³) 給水配管材質 亜鉛メッキ鋼管
受水槽清掃	未実施
法定検査	未実施
試料	水3試料 ①高置水槽 ②受水槽 ③1階給水栓 異物2試料 ②受水槽から採取した水中の黒色異物(写真1)・赤色異物(写真2)
現地調査	遊離残留塩素0.25~0.6mg/L、pH7.1 地下受水槽に浮遊物がある。 高置水槽の蓋が紛失して、いつからかビニール袋とガムテープで蓋がされていた。 喫水面に藻のような付着物が多量に認められた(写真3~5)。

水質検査結果および異物検査結果

検査項目	検査結果
着色原因検査	水試料②については濁度0.14度、鉄0.085mg/Lを認めた。水試料③については鉄0.047mg/L、マンガン0.0021mg/Lを認めた。
水道法水質基準などの理化学検査	41項目の検査では水質基準・水質管理目標設定項目・要検討項目の超過は認められなかった。
黒色異物検査	磁性、塩酸溶解性、燃焼試験、元素分析の検査から黒色異物は鉄を主成分とする金属片であった。

判定:水試料①、②、③について基準値を超過するような水質異常は認められなかった。

高置水槽の蓋が紛失してから長期間経過したために藻のような浮遊物が発生した。受水槽において濁度が上昇しており水道水の水質劣化が認められた。濁質成分の特定には至らなかった。採取した黒色異物は鉄を主成分とする金属片であった。水試料③では色度の上昇は認められていないが、鉄やマンガンの濃度が上昇しており、給水配管に使われている鋼管からの溶出が疑われた。

対応:給水を停止し、受水槽・高置水槽の清掃、捨て水及び高置水槽の蓋の修繕が行われた。

【事例2】 共同住宅

相談	令和元年8月 給水栓の水が油粘土のような臭い。水を沸かすと臭いが強くなる。
施設概要	地上4階建 昭和32年給水開始
簡易専用水道	受水槽式給水 高置水槽直送方式 受水槽なし 高置水槽(屋外、4階屋上、材質コンクリート、水槽数1、有効容量18.6m ³ 、写真6) 給水配管材質 亜鉛メッキ鋼管
受水槽清掃	平成30年11月実施
法定検査	平成31年1月実施
試料	水2試料 ①4階給水栓 ②高置水槽
現地調査	遊離残留塩素0.2～0.5mg/L、pH7.2

水質検査結果

検査項目	検査結果
異臭原因検査	水試料①、②とも臭気を認めなかった。
揮発性有機化合物検査 ヘッドスペース-GCMS法	26項目のうち定量下限値以上検出されたのは、消毒副生成物といわれる総トリハロメタン(クロロホルム、ブロモジクロロメタン、ジブロモクロロメタン、ブロモホルム)のみであった。
水道法水質基準などの理化学検査	23項目の検査では水質基準・水質管理目標設定項目・要検討項目の超過は認められなかった。

判定: 異臭原因の特定には至らなかった。

対応: 特になし

【事例3】 飲食店舗

通報	令和元年10月 高置水槽の蓋が開いている。
施設概要	地上3階建 昭和41年給水開始
小規模受水槽水道	受水槽式給水 高置水槽方式 受水槽(屋内、地下式、材質コンクリート、水槽数1、有効容量5.4m ³) 高置水槽(屋外、3階屋上、材質FRP、水槽数1、有効容量1.0m ³) 給水配管材質 亜鉛メッキ鋼管
受水槽清掃	少なくとも3年は未実施
法定検査	未実施
試料	水1試料 ①1階給水栓
現地調査	遊離残留塩素0.4mg/L、pH7.2 高置水槽の蓋が開いていた(写真7、8)。いつから開いていたか不明。

水質検査結果

検査項目	検査結果
水道法水質基準の理化学検査	9項目の検査では水質基準の超過は認められなかった。

判定: 高置水槽の蓋が開いていたが、水には外観・異物は認められず水質異常は認められなかった。

対応: 給水を停止し、受水槽・高置水槽の清掃及び捨て水が行われた。

【まとめ】 水道水が通る水道管内は圧力が高く密閉されており外部からの汚染を受けにくい構造ですが、水槽(受水槽・高置水槽)には通気管や点検口などがあり、水道水が外気と触れて外部の影響を受けやすい構造です。屋外にある高置水槽は鍵が壊れて強風で蓋が開いたままになってしまうこともあります。そのため水槽内に貯留した水道水の水質に異常が認められることがあります。

「受水槽式給水」の場合、受水槽から給水栓(蛇口)までの管理は建物の所有者にゆだねられています。昭和の時代に給水開始されかれこれ数10年が経過している施設においては、給水設備の管理者があいまいになり受水槽の清掃がされないままになってしまうことがあります。また、給水配管の材質が鋼管の施設では鉄が溶出し、水道水が茶色に色づくことがあります。揚水ポンプは長年使用しているとゴム様の異物や羽根車の破片などを水道水に混入させることがあります。

水質の異常にいち早く気付くためには毎日、給水栓(蛇口)において水の色、濁り、臭い、味に異常がないか確認します。

受水槽の有効容量が 10m^3 を超える「簡易専用水道」は水槽の定期的な清掃及び法定検査(1回/1年)を受け、水槽をいつも清潔な状態に保つようにします。地下式コンクリート受水槽は有効容量が少なく 10m^3 未満の「小規模受水槽水道」でも6面点検ができないことから、横浜市では条例第56号で受水槽清掃及び管理状況の定期検査を受け、水質事故を予防することとしています。異常があった際は保健所にご連絡ください。

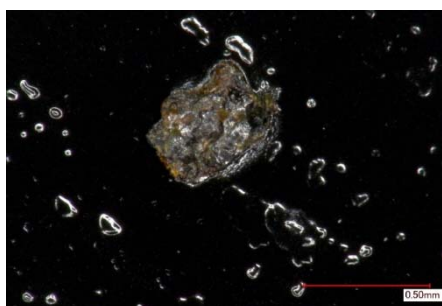


写真1 黒色異物(×200倍)

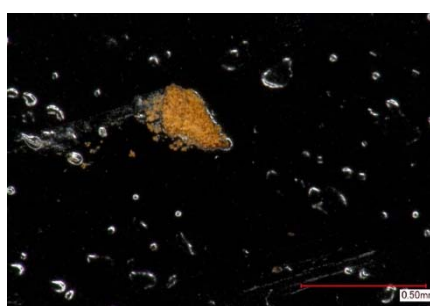


写真2 赤色異物(×200倍)



写真3 ビニールで蓋がされていた高置水槽

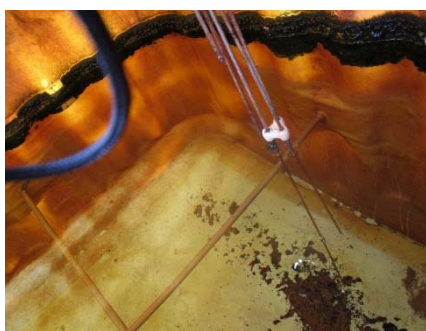


写真4 喫水面に付着した藻



写真5 採取した藻



写真6 コンクリート高置水槽



写真7 蓋の開いた高置水槽



写真8 高置水槽内部

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 6月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- 定点把握対象疾患の多くが、例年より低めの報告数で推移しています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈6月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	8件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	7件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	11件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症:8件の報告(O157が5件(うち無症状病原体保有者が1件)、O26が1件、O血清群不明が2件(2件とも無症状病原体保有者))がありました。
- 2 E型肝炎:感染経路等不明の60歳代の報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症:肺炎型2件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 5 ウイルス性肝炎:B型ウイルス性肝炎(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:7件の報告がありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:G群、A群の報告が各1件ずつありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が2件、無症状病原体保有者の報告が2件、その他が3件ありました。性別は男性6件、女性1件で、推定感染経路はすべて性的接触(同性間4件、異性間2件、異性間および同性間1件)でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症:30歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症:70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 11 梅毒:無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件の報告がありました。性別は男性8件、女性3件、推定感染経路はいずれも性的接触(異性間7件、同性間1件、異性間および同性間1件、詳細不明2件)でした。
- 12 播種性クリプトコックス症:40歳代の報告が1件ありました。
- 13 破傷風:70歳代の報告(ワクチン接種歴不明)が1件ありました。
- 14 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:70歳代の報告が1件、90歳代の報告が1件ありました。

◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。
神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

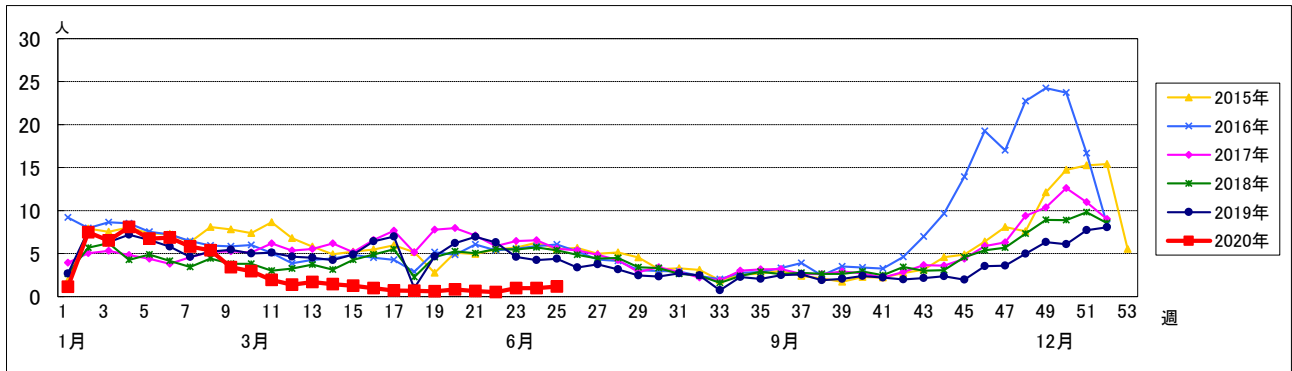
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

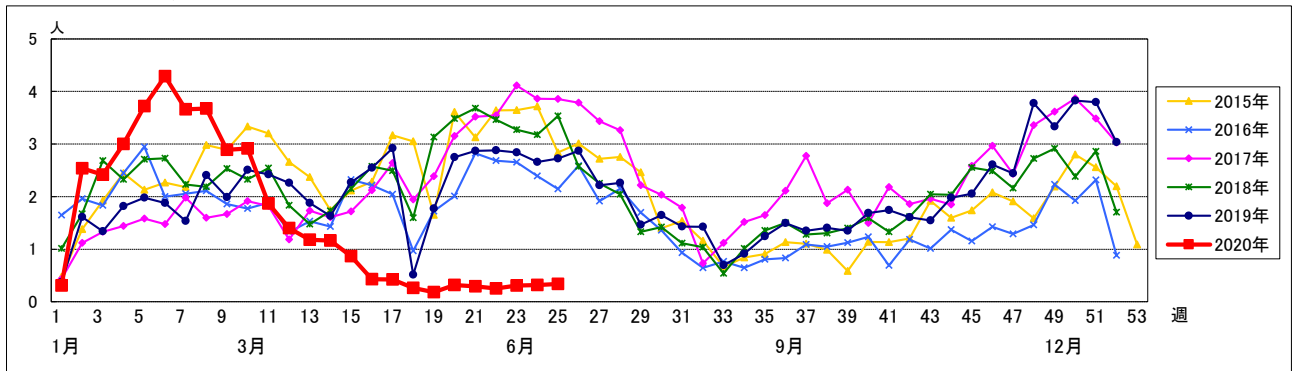
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第21週	5月18日～5月24日
第22週	5月25日～5月31日
第23週	6月1日～6月7日
第24週	6月8日～6月14日
第25週	6月15日～6月21日

1 感染性胃腸炎:第4週の8.09をピークにその後減少し、例年より低めの報告数で推移していて、第25週は1.17となっています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第6週の4.29をピークにその後減少し、例年より低めの報告数で推移していて、第25週は0.34となっています。



3 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5件	女性: 7件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 7件	淋菌感染症	男性: 7件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

5月25日から6月21日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点3件、基幹定点0件、眼科定点2件で、定点外医療機関からは2件でした。

各種ウイルスの分離またはウイルス遺伝子は検出されていません。

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

6月期(2020年第22週～2020年第25週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からサルモネラ属菌1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、薬剤耐性緑膿菌1件、非結核性抗酸菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌6件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌10件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件、バンコマイシン耐性腸球菌1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ1件の検査依頼がありました。小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌1件、結膜炎起因菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第22週～2020年第25週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Manhattan (1)	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (5), <i>Raoultella ornithinolytica</i> (1)	
	薬剤耐性緑膿菌	1	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (1)	
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)	
	腸管出血性大腸菌	6	O157 : H7 VT1 VT2 (3), O157 VT2 (1), O26 : H11 VT1 (1), OUT : H- VT1 (1)	
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	10	<i>Klebsiella aerogenes</i> (4), <i>Enterobacter cloacae</i> complex (3), <i>Escherichia coli</i> (3)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 T23 (1), G群溶血性レンサ球菌 (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)	
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium</i> <i>vanB</i> (1)	
	分離同定	材料	項目	検体数
保健所	喀痰	レジオネラ	1	不検出 (1)
小児サーバイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	1	TB3264 (1)	
	結膜炎起因菌	1	<i>Staphylococcus hominis</i> (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和2年6月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和2年6月の総アクセス数は、372,939件でした。前月とほぼ同様のアクセス数でした。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*171.4%、保健情報12.5%、検査情報月報4.8%、食品衛生2.5%、薬事2.2%、生活環境衛生1.8%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

6月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「大麻(マリファナ)について」、3位は、「ペストについて」でした。8位には、「フルーツジュース(果汁)と下痢について」が入っています。

表1 令和2年6月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	152,145
2	大麻(マリファナ)について	13,068
3	ペストについて	11,120
4	ぎょう虫(蟯虫)症について	5,751
5	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	5,196
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,811
7	衛生研究所トップページ	4,784
8	フルーツジュース(果汁)と下痢について	3,805
9	トキソプラズマ症について	3,338
10	サルモネラ感染症(食中毒)について	3,067

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

「ペストについて」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ha/plague1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和2年6月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 令和2年6月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
予防接種について	1
害虫の駆除について	1
野良猫について	1

2 追加・更新記事

令和2年6月に追加・更新した主な記事は、4件でした(表3)。

表3 令和2年6月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
6月5日	感染症に気をつけよう(6月号)	掲載
6月16日	熱中症情報(2020年6月16日)	掲載
6月22日	熱中症情報(2020年6月22日)	掲載
6月29日	熱中症情報(2020年6月29日)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】